

平成 30 (2018) 年 4 月 24 日

第 67 号

世田谷稲門会
明一 夫子 行男 子
吉俊 浩邦 信秀 昭俊
田並口 島子 内林 巢
横榎 小寺 兼大 若鷲
行人集
発行人
編集

事務局
神奈川県川崎市中原区新丸子東
3-1100-12 M2209
TEL/FAX 044-433-9202
林 肇 (はやし かおる)



世田谷稲門会会報

世田谷稲門会 第27回定時総会開催

前スキー部監督、倉田秀道氏が講演

6月2日(土)午前11時より
青山・アイビーホールにて

第27回定時総会が表参道・青山のアイビーホールにて平成30年6月2日(土)午前11時より開催されます。

講演会は早稲田大学出身で前スキー部監督の倉田秀道氏(昭59社、けやき会)をお招きし、「日本スキーの今後―平昌五輪を終えて―(仮題)」と題してご講演をいただきます。



くらたひでみち
倉田秀道氏の経歴

昭和36年8月26日生まれ。千葉県出身、昭和59年早稲田大学社会科学部卒、修士課程修了、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社勤務。

平成15年〜28年早稲田大学スキー部監督。平成18年会社より出向しフルタイム監督として指揮する傍ら客員教授として学生教育に従事。同部を

40年ぶりの大学日本一、通算9回の大学日本一に導くとともに、五輪選手を多数輩出。今回の平昌五輪ではノルディック複合銀メダル渡部暁斗選手など7選手が出場。また、早大史上初となるトップアスリート入試でのパラリンピック・スキー村岡選手を入学させ、早大初の寮のバリアフリー化を実施。村岡選手は平昌パラリンピックで金・銀・銅メダルを獲得。

全日本クロスカントリースキー・ナショナルチームスタッフの経験も持つ。

総会の詳細については同封の別紙「第27回定時総会のご案内」をご参照ください。

是非皆様のご出席をお待ちしております。同封の返信用はがきで出欠のご連絡をお願いいたします。なお、当日ご出席いただけない方は委任状にご記入、ご署名の上ご返信くださいますようお願い申し上げます。会費は8000円です。

講演会 (レディースクラブ主催) のお知らせ

「健康長寿になる日々の習慣」と題して中山久徳 Dr(きぬた会)に講演していただきます。

多くの皆様のご来場をお待ちしております。

日時：平成30年6月16日(土) 14~15時

場所：北沢タウンホール 12F スカイサロン



中山久徳 Dr

【予告】平成30年納涼会のご案内

来る8月25日(土)午後3時より渋谷区宇田川町の「ツムピアホフ渋谷」に於いて、世田谷稲門会の納涼会を開催致します。会費は6,000円の予定です。是非ご参加頂きたくご案内申し上げます。

尚、詳細は7月発行の会報68号でお知らせ致します。

(担当ブロック会：キャロット会)

平成30年新春懇親会
ソプラノ歌手KEIKOさんを迎えて

平成30年新春懇親会は1月27日(土)午前11時から、青山のアイビーホール「サフランの間」にて実施されました。数日前の大寒波による降雪の影響で、道路のあちこちに雪だまりが残っており足元が悪い中でしたが、来賓を含めて92名の方々のご参加をいただきました。



第二部司会の真木幹事

第一部は鈴木宏治副会長の司会で始まりました。横田吉明会長の新年のご挨拶に引き続き、来賓の三宅茂樹世田谷三田会会長にご挨拶をいただきました。第一部は歌手のKEIKOさんの歌を楽しみました。KEIKOさん(本名:村上けい子)は国内外で活躍されている実力派オペラ歌手です。「アメージンググレイス」



KEIKOさんと第一部司会と鈴木副会長



挨拶する横田会長

「アマポーラ」などなじみのある歌で、アンコールも含めて全9曲を聴かせていただきました。実に声量豊かな本格派の歌を拝聴いたしました。また、会場後方にはKEIKOさんのCDも数多く並べられ、公演終了後に皆さんが買い求めていました。



新入会員の田畑さん

第二部は懇親会です。真木郁夫幹事の司会により始まり、まずは来賓の山根貞夫狛江稲門会副会長にご挨拶をいただきました。その後、新入会員の紹介があり、壇原由樹さん(昭53法)、大山俊哉さん(昭57理工)、田畑由佳さん(平25スポ科)の3名にご挨拶をいただきました。特に田畑さんは平成25



盛り上がる会場



乾杯の音頭をとる富永さん

年卒という本日唯一の20代でした。続いて富永孝子さん(昭30文)の音頭で乾杯が行われ、第一部で公演いただいたKEIKOさんも参加された懇親会のスタートです。各テーブルにコース料理が運ばれ舌鼓を打つ人、日本酒を味わう人、ワインや焼酎も用意され、各テーブルでは会話に花が咲きました。

福引抽選会のレディースクラブの皆さん



リードする池田幹事

所属の井山画伯の絵でした。会員の皆さんから多くの賞品が提供され、当たった方、1番違いで外れの方、悲喜こもごもの表情がとても印象的でした。さて、宴会も終盤です。元応援部の池田友彦幹事のリードで校歌斉唱、エールが行われ、締めめの挨拶は島田實副会長兼幹事長です。福引に外れた方には美味しいお菓子のお土産もついて、至れり尽くせりの新春懇親会でした。皆様お疲れさま。(榎並 俊一/記)

春季代議員会

平成30年3月3日(土)、16時から早稲田大学大隈記念講堂において650名の代議員が出席し開催された。世田谷稲門会は都内稲門会では最大の16名の代議員を擁し、今回は6名が出席した。鎌田総長の挨拶に始まり、活動報告・決算予想および活動計画・予算編成などについて議事が進行した。報告事項に入り、「早稲田大学演奏旅行計画」などが報告され18時過ぎに終了した。終了後、大隈ガーデンハウスにて懇親会が開催された。

(榎並 俊一/記)

北澤八幡神社でジャズ演奏

今年もGWに「代沢芸術祭」が開催されます。昨年同様、早大ニューオーリンズジャズクラブOBバンドが出演することになりました。デキシールランドジャズを元気に演奏します。

5月1日(火)の14~16時に北澤八幡神社の舞台です。入場無料です。

(西北会 寺島 邦夫/記)

23区支部大会に多数参加

平成30年3月18日(日)、15時より早稲田大学大隈記念講堂において東京都23区支部大会が開催されました。世田谷稲門会から横田会長以下19名が参加しました。



川勝静岡県知事

第一部は、静岡県知事の川勝平太氏の講演会でした。「富士山・稲穂・世界」と題して、早稲田大学教授から静岡県知事に至る経緯を詳細にご説明いただき、また、明治・大正・昭和・平成の天皇陛下の富士山を詠じた歌を紹介・解説いただき、とても分かりやすい興味深い講義でした。

第二部は場所をリーガロイヤルホテルに移し、320名の参加を得て賑やかに開催されました。コース料理と美味しいお酒で楽しみました。途中、応援部による「紺碧の空」で全員が立ち上がって歌うなど、大いに盛り上がり、最後は全員による校歌斉唱で締めくくりました。(榎並 俊一/記)

＝母校の今＝(第34回)

早稲田大学・埼玉県・所沢市が、イタリア共和国オリンピック委員会とイタリアチームの事前トレーニングキャンプに関し覚書を締結!

早稲田大学は埼玉県、所沢市とともに2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるイタリア共和国オリンピックチームの事前トレーニングキャンプ招致に取り組んできたが、昨年10月19日、イタリアオリンピック委員会との間で覚書が締結された。

駐日イタリア共和国大使館(東京都港区三田)で行なわれた締結式には、イタリア側を代表して、イタリアオリンピック委員会のカルロ・モルナーティ副事務総長、日本側からは、上田埼玉県知事、藤本所沢市長、鎌田早稲田大学総長が出席。さらに、来賓として、駐日イタリア共和国特命全権大使のジョルジョ・スタラーチェ氏と東京オリンピック・パラリンピック競技会組織委員会の森会長、同斎藤副会長の三氏が出席した。なお、事前トレーニングキャンプの誘致と並行して所沢市と埼玉県が共同申請していたイタリア共和国を相手国とするホストタウン登録も、昨年12月11日に内閣官房により正式に登録された。

因みに、「ホストタウン」とは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国と地域間の人的・

経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」して登録する制度を指す。今後、埼玉県、所沢市、さらに早稲田大学は、イタリア共和国との人的・文化的交流を通じて同国との友好関係をより深めると共に、地域の活性化にも繋がるものとして期待されている。いずれにもせよ、イタリアのオリンピックチームの事前トレーニングキャンプ地として、陸上、水泳などの複数競技の選手達200人以上が早稲田の所沢キャンパスを中心拠点として所沢にやってくる事が正式に決まったわけである!(大内 秀行/記)



所沢キャンパスのシンボルタワー

ブロック会だより

西北

○西北会サポーター会開催

平成 29 年 11 月 29 日(水)18 時より下北沢「四川料理 天華」にてサポーター会(世話人+サポーター)を開催した。テーマは代表交代、新体制、今後の方針。柏良子代表世話人よりこの 5 年間の協力を感謝した後、新代表に寺島邦夫さんを指名。満場一致で承認。寺島新代表より新体制(HP 参照)を発表。又組織の活性化に向け若手の斬新なアイデアを生かした企画、運営をしていきたいと所信表明。その後前原祖彦さんの音頭で開宴。和気藹々の宴会モード。最後は若手の大重史朗新世話人の中締めで散会。

○「恒例の“初詣・新年会”実施」

平成 30 年 1 月 11 日(木)17 時から有志 22 名の会員が地元の北澤八幡神社に集結し、初詣を行った。本殿内では西北会会員の宮司から祈祷を受け、本年の指針として“浄明正直(じょうみょうせいちよく)”が示された。その後神社近くの新年会会場「バルボアカフェ」へ向かった。まず寺島新代表より新体制での課題、計画等を報告して乾杯の発声。箱根駅伝での母校の予想外の大健闘や世間の四方山話など話題は豊富。熊谷慶紀部会総括より趣味の会への勧め、柏良子前代表、横田吉明会長の近況報告。

最後に松浦晋三郎さんよりこの楽しい会をいつまでもとして中締めの挨拶。再会を約して散会とした。

“本年も良い年になりますように。”

(桃井 清治/記)



キャロット

平成 29 年 12 月 9 日(土)12 時より 14 時まで「銀座アスター三軒茶屋賓館」に於いてキャロット会総会並びに忘年会を開催致しました。

代表世話人の富塚より平成 29 年度のキャロット会の行事報告、決算報告並びに平成 30 年度の行事予定の説明がありました。

平成 30 年度の世話人は青木明彦、井口昭、榎並俊一、萩原健、森昌治、富塚兆弥が任命されました。

忘年会は青木明彦、青木誠司、井口昭、榎並俊一、遠藤智、加藤隆夫、河井洋介、下山芳男、富塚兆弥、中井盛久、萩原健、原貴則、東直彦、星野裕、御園生勇、森昌治、守谷之男(あいうえお順、敬称略)計 17 名がそれぞれ 4~5 分の近況報告を行い和気藹々と 2 時間を過ごしました。

(富塚 兆弥/記)



さくら

毎年春及び秋の 2 回懇親会を開催してさくら会の皆さんの親睦を行っていますが、平成 29 年度はさくら会及び千歳会が担当の 9 月 2 日(土)開催の納涼会の成功に全力を尽くした関係で、秋季懇親会は 11 月 25 日(土)の開催となりました。当日は三軒茶屋の「銀座アスター」にて午前 11 時 30 分~午後 2 時まで出席者 16 名による中華料理のフルコースを囲みながらの懇親の会となりました。本部からは横田会長、島田幹事長も出席され納涼会成功の労いの挨拶と、鈴木副会長からは納涼会開催までの数多くの打ち合わせやら冷や汗ものの裏方手配の苦労話もされて改めて出席の皆さんから感謝されました。

尚、今回の懇親会では恒例のピンゴゲームの代わりにスピーチタイムをたっぷり用意して、出席者の皆さんから順番にスピーチをお願いして大いに盛り上がりました。このため次回も引き続き出席者の皆さんの人生経験や、日本の置かれている現状や国際問題まで幅広い話題が展開される事を期待して、最後はこれぞ恒例の早稲田大学校歌を歌い、若林昭男氏手配の集合写真の撮影にて閉会となりました。

(江原 利次/記)



千歳

定例の懇親会を春と秋の年 2 回開催しています。平成 30 年度第 1 回目の懇親会を 4 月 21 日(土)、京王線府中駅南口に昨年 7 月にオープンした再開発ビル「ル・シーニュ」3 階の「梅の花」にて開催しました。

懇親会に先立ち、12 時に有志が府中駅に集合し、国の天然記念物であるけやき並木を通して、大國魂神社に参詣しました。大國魂神社は景行天皇 41 年(西暦 111 年)の創建。大化の改新により武蔵国府が置かれ、国司が奉仕

し武蔵総社となった由緒ある神社です。ふるさと府中歴史館や境内の宝物殿、隣接する武蔵国府跡などを約1時間かけて見学しました。今回は訪ねませんでした。付近には多くの史跡、名刹があり、散策を楽しめます。

午後1時30分から、「梅の花」にて総会及び懇親会を開催しました。平成29年度会計報告、世田谷稲門会の最近の動きの紹介などのあと、乾杯、懇談に移りました。途中、各人の近況報告などを交え、湯葉と豆腐を主体とした料理とお酒を楽しみ、和やかなうちにお開きとなりました。(戸田 昇/記)

玉川

11月2日(木)秋のイベントで横浜の原鉄道模型博物館見学会を行いました。鉄道技術者の原信太郎が制作・所蔵した世界の鉄道模型と鉄道関係コレクションを公開しています。12名(内女性3名)が参加し、運転台でのハンドルを握っての実操作等大いに楽しみました。終了後、中華料理店「生香園」で昼食会を行いました。

1月21日(日)正午より新年会を「田園調布倶楽部」で開催しました。本部から横田会長と島田幹事長お二方のご出席を頂き、会員29名、夫人6名、女性会員のご主人1名(準会員)の計38名が出席し盛況でした。米窪さんの司会で開会、真木代表世話人の挨拶の後、横田会長にお言葉を頂きました。乾杯の発声は井澤さんをお願いし、歓談に入ったところで島田幹事長にもお言葉をいただき、新入会員で初出席の小池(早苗)さんと佐藤(好司)さん(夫人同伴)の紹介・挨拶と続きました。



優雅な雰囲気の中での美味しい食事に皆さん大変満足された様子でした。その後も新田さんのスピーチ、林さんの本部からのお話、事務局からの玉川会行事案内、河津さんによる歌の披露と合唱と盛り沢山でした。デザートタイムで席替えを行って更に交流を深め、会はずます盛り上がり、大変楽しい一時となりました。締めの挨拶を井山さんにいただき、2時45分にお開きとなりました。(太田 隆/記)

けやき

今年3回目のけやき会の懇親会は、忘年会を兼ねて平成29年12月8日(金)の11時半から15時まで開催されました。世田谷線の松陰神社前駅に集合し、1時間ほど松陰神社周辺を探訪・散策の後12時半から近くの世田谷通り沿いにある「蕎麦 石はら」で忘年会に。“昼から蕎麦屋で一杯、如何ですか?”のキャッチコピーに誘われた(?)方々が集まり、参加者は19名でした。

今回も斎藤正憲の司会進行により、最初に小倉代表世話人の挨拶と乾杯で始まり、出席者全員から自身の近況報告、趣味の会の活動報告、島田實さんから世田谷稲門会の活動報告や年明けに開催される新春懇親会のご案内等の報告を挟みながら、「石はら」が用意した特別メニューの“昼飲みコース料理”を堪能しました。どれも秀逸な品質や味付けの刺身、煮物、揚げ物等が次々と出されシメの蕎麦に到達する頃は全員ほぼ満腹・満足状態に。また、各テーブルでは話に花が咲き大いに盛り上がった懇親会・忘年会でした。

けやき会の今後の活動予定として2018年度の総会を4月21日(土)に計画している事を井上文さんからお知らせがあり、最後に校歌を1番だけ声高らかに元気に歌い上げて会は終了しました。



(斎藤 正憲/記)

きぬた

きぬた会の昨年秋の催しとして、11月18日(土)に参宮橋の新日鐵代々木倶楽部に於いて、講演会と懇親の食事会を行いました。第一部の講演は、きぬた会の吉村豪介さんの「NHKスペシャル〜求む若き頭脳〜取材こぼればなし」で、1994年のマサチューセッツ工科大学とケンブリッジ大学でのロケと取材を基に制作され、同年5月1日に放映されたものです。まずビデオを見た後に裏話と苦労話を交えた講演をしていただき、質疑応答で更に掘り下げたお話し合いを致しました。

その後の懇親会は、久しぶりにご参加いただきました宮木さんの開会のご挨拶、更に横田会長、島田幹事長からもご挨拶を頂いたほか、参加者全員から近況報告をしていただき、和牛しゃぶしゃぶのコース料理でお酒も入り、大いに盛り上がった会になりました。



今後とも気軽に参加できる会を目指して、ランチ会、懇親会を企画していきたいと考えております。(國澤 俊一/記)

特別部会だより

レディースクラブ

レディースクラブでは2回にわたり「老後に備えて」と題して講演会を開催し、人生を全うするまでの経済的基盤作り、その承継方法につき考えてまいりました。これを契機に生前整理に着手されたという嬉しいご報告もいただきました。(講演会資料、内容等のお問合せはさくら会中村京まで)

今回は、視点を変えて、健康寿命が延びるなか、医学的側面から中山久徳先生(きぬた会 昭63商卒)より「健康長寿になる日々の習慣」と題してご講演をいただきます。乞うご期待。(1ページ参照)

中山久徳氏略歴

1965年 豊島区生まれ。1988年 早稲田大学商学部卒業。リクルートに入社。国立山形大学医学部に進学。1996年に卒業後は、東京大学医学部物療内科(現アレルギーリウマチ内科)に入局。リウマチ・膠原病診療を専門とし、関東中央病院、東京都立駒込病院、国立相模原病院で研鑽を積まれました。2012年には「そしがや大蔵クリニック」を開業。2016年1月には「稲門医師会」を設立し幹事長として奔走中。

今後もレディースクラブでは、講演会に限らず女性の目線から会員の皆様の豊かな生活に役立つ企画を発信していきます。ご都合に合わせてお気軽にご参加ください。また、ご希望、ご意見、ご感想をお待ちしております。

(中村 京/記)

青年

青年部は、平成29年11月28日(火)に淡島交差点近くにある「あおい食堂」にて平成29年の最後の例会を行いました。当日は、本部から横田会長、島田幹事長をはじめ6名の役員の方々にご出席頂き、総勢23名が立食パーティー形式の例会に参加しました。住宅街にある隠れたフレンチの名店で、美味しいフランス料理を堪能しながら、秋の夜長を、ワイン等を片手に語り合い、大いに盛り上がりました。途中で、初参加者の自己紹介、企画担当グループによる千代田稲門会主催のサロンへの参加企画等の提案がありました。



また、平成30年に入って最初の例会を3月28日(水)午後7時から三軒茶屋の居酒屋「さんじゅうまる」で行いました。(詳細はHPを参照ください。)現役で仕事をしている異業種のメンバーが集まり、美味しいお酒、魚料理に舌鼓を打ちながら、楽しく交流出来ました。

(中島 史郎/記)

地域サポート活動

先日、「重い病気を持つ子どもと家族を支える財団(キッズファミ財団)」の石井由美子理事のお話を聞く機会を得、また、同財団主催の公開シンポジウム『すべての子供を育む社会を目指して』を聴講いたしました。

難病の子供たちも最近の医学の進歩により多くの命が助けられるようになっていますが、全てが普通に生きていけるわけではなく、人工呼吸・喀痰吸引などの医療ケアが必要な子どもたちは全国で17000人以上、そのケア作業は殆ど家族がせざるを得ないのが現状です。24時間365日、目が離せない子供達へのケアに、家族の皆さんの負担は計り知れないものでしょう。そんな子供たちと家族の為に交流の場・安らぎの場を作ろう、という思いから医療型短期療養施設「もみじの家」が世田谷の国立成育医療研究センター内に一昨年6月に設立されました。この財団では、もみじの家利用者をはじめとするそんな子どもたちと家族を支援する活動をされています。

医療ケアが必要な子どもは、病院から出た時から家族による絶え間ない医療ケアと、命の危険が待ち構えています。それでも我が子だから、家族だから、傍にいてほしい、一緒に暮らしたい。でも時にはほっと一息つけるもみじの家に行きたい。

子供たちにとって教育は生きることの次に重要な事です。知識だけでなく同世代の子供と過ごして社会性を身に付けていき、人間としても成長していく。ベッドから起きられない子供が「私が大きくなってお母さんになったら…」と言っていました。何とか周りの力で生かされている可哀そうな子供ではなく、一人の人間として生きているのです。

「眼鏡が無いと生活できない人がいるのと同じように、人工呼吸器が無いと生活できない人がいる」と言う事なのです。多様性を認め様々な障害を背負った人たちも普通に暮らして行ける社会、それがこの財団の目指すところであり、私たちはそのような社会にしていかなければいけないと強く感じました。

(林 馨/記)

趣味の部会だより

ウォーキング

1月13日(土)開催の新年初歩きは、東武亀戸線の亀戸水神駅午後1時に12名が集まり、当日世話人の横山徹さんの案内で亀戸七福神巡りを楽しみました

最初に亀戸水神にお参りしてから常光寺(寿老人)～東覚寺(弁財天)～香取神社～龍眼寺～亀戸天神を巡り初春のうららかな下町風情の中を散策しました。最も賑わいを見せた亀戸天神では日光猿軍団特別出演のお猿さんの愛らしい曲芸に神社での初笑いをもらいました。コースの最後は錦糸町駅まで歩き、周辺の居酒屋で新年会に参加の2名を交えて今年もウォーキングを通して元気な一年を過ごそうと氣勢をあげました。

2月18日(日)は日比谷線南千住駅午後1時に11名が参加して、世話人の矢後勝洋さんの案内で最初に回向院に立ち寄り小塚原刑場での刑死者の人達(安政の大獄の刑死の橋本左内、吉田松陰)や、蘭学者杉田玄白らの観臓記念碑、毒婦の高橋お伝や鼠小僧の墓石などを供養して回りました。地元では天王様と呼ばれている素盞雄神社では奉納された2千組のひな人形が社殿に展示されて圧巻でした。懐かしの都電に乗っての次の訪問は早稲田の大隈講堂と同様に国の重要文化財となっている大正の面影と当時の最新技術の三河島污水処分場施設です。ここでは説明員の案内で施設を見学し、季節ごとのイベントもあるのでぜひまた来て下さいとの歓迎を受けました。最後は隣接の荒川自然公園を散策しながら町屋駅にて解散となりました。

(江原 利次/記)



ゴルフ

第93回世田谷稲門会ゴルフコンペ

平成29年12月5日(火)、快晴の桜ヶ丘カントリークラブにて、44名(11組)の参加で開催されました。参加者の内訳は、グランドシニア21名、シニア9名、一般10名、レディース4名でした。当日のグリーンはスティンプメーター11と、かなりな高速グリーンでしたので、皆さん苦労されたようです。

結果は、総合優勝が加藤滋紀さん(G)で45:46=91、HD20、NET71でした。グランドシニア優勝は江口工さん、シニア優勝は山口稔さん、レディース優勝は竹入啓子さんでした。おめでとうございます。ベスト・準優勝は小林宏さんで40:41=81でした。3位は中野通明さんでした。

また、平成30年3月27日(火)に第94回コンペを中津川カントリークラブで開催しました。(詳細はHPをご覧ください)

(榎並 俊一/記)



スポーツ観戦

昨秋は70年ぶりに東京六大学野球リーグ戦で最下位に沈むという屈辱を味わった早大。覇権奪回へ向けた戦いがいよいよ本格化する。春のオープン戦にむけて3月には沖縄に出発する。現地では社会人と5試合、帰京後にも本拠地東伏見の安部球場で同志社大などと実戦が続く。ポジション争いも横一線の状況にあり、チーム内の競争に勝ってはじめてチームの勝利がみえてくる。

新チームの主将にはエース小島和哉(スポ科3、埼玉・浦和学院)が就任、副将には岸本朋也(スポ科3、大阪・関大北陽)と、黒岩駿(スポ科3、長野・長野日大)がつく。「捲土重来」をスローガンに今年も「守り勝つ野球」をめざして進む早大。厳しいシーズンにむけて万全の体制を整えて臨みたい。

(小林 昭一郎/記)

芸術芸能鑑賞

今年の冬は稀に見る厳冬のため1月・2月はイベント案内を極力少なくした。

世田谷稲門会の今年の新春懇親会のゲストのソプラノ歌手KEIKOさんのサントリーホールでの音楽会を1月12日(金)に参加7名で歌唱を楽しんだ。また1月26日(金)には恒例の「三越落語会」を常連の皆さんと楽しんだ。落語家になって77年の金馬さんの元気な姿にいささか驚いた。声もはつらつとしていて、本人の精進もさぞかしと思う。

3月21日(水)の祝日には三越落語会の常連の皆さんと参加を予定している。

(鈴木 宏治/記)

食べ歩き

平成30年2月27日(火)12時より、例会がお茶の水駅前の『ビストロ備前』にて開催された。「日本美の原点・備前焼とフランス料理を調和させた食事を楽しむ会」と銘打たれた今回の会場であるビストロ備前は、人間国宝藤原啓・雄父子、その後継者藤原和と三代に亘り造られた芸術的な器と伝統的なフレンチの融合で有名であり、また、早稲田OBである故大橋巨泉氏が長年好んだフォアグラ丼の店としても有名である。今回フレンチの味もさることながら、備前焼の器は確かに素晴らしく、大変印象に残った。

会場は重要文化財であるニコライ堂が見渡せる素晴らしいロケーションで、天候にも恵まれゆったりとした中、伝統的なフレンチを楽しみながら、テーブルごとに会話が弾んでいた。

ゲストで来られた方、久しぶりに参加された方、ご高齢の大先輩諸氏からご挨拶をいただき、ユーモア溢れる話、2.26事件当時の話、海外旅行の話、ボランティアで日本語を教えている話など興味深いお話が満載であった。前回はアンケートの結果報告があり、印象に残った店、今後行ってみたい店などの発表があった。今後の運営に反映されるとの事で非常に楽しみである。最後に奥田真知子さんの歌、早春賦を聴き、又皆で歌い、お開きとなった。

今回の参加人数は36名。次回は5月25日(金)、六本木の国際文化会館で開催予定。たくさんの参加をお待ちしております。

(大山 毅彦/記)



俳句

平成29年11月27日(月)の兼題は「冬日和」。12月25日(月)の兼題は「くりすます」。平成30年1月22日(月)の句会は兼題は「氷」。句会の後、Sizzler 桜新町店で8名が集まり、降る雪を愛でながら新年会を行いました。2月26日(月)の兼題は「春めく」でした。いずれも桜新町区民集会所で開催されました。(富塚 兆弥/記)



冬日和病室の窓少し開け	利水(江原利次)
春めくや揉み手とまらぬ税務官	恵那(榎並俊一)
夕闇のせまりて白し花八手	まもる(松尾 守)
人ひとり拾い枯野のバス行けり	勝(田中 勝)
街にはや聖歌流れる日の翳り	広(矢後勝洋)
冬日和犬の漫画の暦買ふ	上馬の(暮田忠雄)
手水舎の水揺れやまず初詣	雪子(家井雪子)
異人坂登れば白き梅の花	兆弥(富塚兆弥)
閑院の医師の苙び状寒椿	たか二(荒居隆二)

釣り

11月22日(水)も当初は船宿より中止の連絡があったものの、前日になり出漁できるとの連絡により5名が参加する。しかし天候は悪く、強風、激しい雨のため、出漁された方は大変だったらしい。釣果は良く、久しぶりに真鯛、國澤さん5枚、イナダは各自10匹以上釣ったとのこと。小生は欠席。

12月24日(日)金沢八景新建丸よりイシモチ釣りに柴田、金子さんの2名のみ。年末のため参加者は少なかった。柴田25~32cmの大型のみ18匹。竿頭23匹。イシモチは冬に大変美味しい魚で、バタ焼き、中華風フライ、刺身等、料理の方法も多い。

1月22日(月)京橋新世界にて新年会。やはり、寺島さん、中村さんのアラスカ釣行の話で盛り上がる。中村さんより潮時表の入っているカレンダーを皆さんに配ってもらった。

2月18日(日)、再度イシモチ釣り。國澤さん、金子さん2名参加。当日も天候は良かったものの全くの不漁で、國澤さんでさえ6匹。

3月18日(日)より4月、5月と劔崎沖の真鯛釣りも始まる。東京湾には、20万匹の真鯛の稚魚が放流されたそうで、そろそろ姿を見せるのではないかと。江戸川河口でもカレイ稚魚放流により今年は30~45cmの特大カレイが釣れ始めている。

今年はどうも湘南沖が良く釣れているので、3月2日(金)茅ヶ崎港よりちがさき丸で鯆釣りに参加する予定。3月1日(木)より溪流釣り解禁となる。霞ヶ浦ホソの真鮎乗っ込みも始まる。暖くなる春ももうすぐだ。

(柴田 昇/記)

麻雀

今年度9月迄の月例会の結果を報告致します。会場は用賀「鈴家」です。

- 平成 29 年 4 月 9 日 (日) 優勝：橋本大道、準優勝：河村卓郎、3 位：荒居隆二 (参加 28 名)
- 平成 29 年 5 月 13 日 (土) 優勝：橋本大道 準優勝：郡山弘文、3 位：河内文雄 (参加 24 名)
- 平成 29 年 6 月 11 日 (日) 優勝：荘司真恵、準優勝：村瀬順、3 位：草谷好孝 (参加 29 名)
- 平成 29 年 7 月 8 日 (土) 優勝：橋本大道、準優勝：村瀬順、3 位：國澤俊一 (参加 32 名)
- 平成 29 年 8 月 6 日 (日) 優勝：荒居隆二、準優勝：吉村登喜子、3 位：阿部信之 (参加 21 名)
- 平成 29 年 9 月 10 日 (日) 優勝：奥田次郎、準優勝：橋本大道、3 位：郡山弘文 (参加 28 名)

強豪が薙めくなく橋本氏が 6 回中優勝 3 回、準優勝 1 回と驚愕の成績を残しました。また荘司女史の念願の初優勝や、古豪奥田隆氏のご子息奥田次郎氏の初参加初優勝は特筆事項です。 (飯田 保則/記)

カラオケ

■100 歳めざす [月例会] 毎月第一土曜日午後 1 時～ 5 時ビッグエコー下北沢南口駅前店。第 128 回 11/4 (9 名)・第 129 回 12/2 (11 名)・第 130 回 1/7 (14 名) 新年会千歳船橋マダムチョウの店写真下・第 131 回 2/3 (15 名)・第 132 回 3/3 (14 名) (写真上は 8/6 (12 名) 納涼会、会報 66 号で手違いにより誤掲載したため本来の写真を掲載しますー編集部)

■[新年会リクエスト曲抜粋] ♪麻生久江 (京都ひとり)・薄井好雄 (誰か故郷を想わざる)・小倉康弘 (秋冬 / 原大輔)・河内文雄 (小樽の人よ)・熊本昭二 (新雪 / 灰田勝彦)・熊本ちづる (抱擁 / 箱崎晋一郎)・倉田豊 (好きにならずにいられない / Elvis Presley【注】)・倉田政子 (三味線ブギウギ / 市丸)・小池早苗 (風の盆恋歌 / 石川さゆり)・犀川千代子 (愛燦燦 / 美空ひばり)・鈴木宏治 (コモエスタ赤坂 / ロスインデオス)・友吉彰 (なやみ / 杉良太郎)・内藤娃子 (雪が降る / アダモ)・横山徹 (麦の歌 / 中島みゆき)・全員 (都の西北) ♪

【注】世界中で大ヒットした Elvis Presley「好きにならずにいられない」の原曲は「愛の喜び」。(作詞フロリアン・作曲マルティーニ)。ドイツ生まれのオルガン奏者マルティーニは 23 歳のとき夢を抱いてパリに来て 18 世紀のフランスで流行っていた台詞を含む歌劇「オペラコミック」を次々に作曲し有名になった。国王ルイ 16 世の弟アルトワ伯爵はマルティーニの才能を認め自らの楽団長に任命して、ブローニュの森にあるバガテル公園のシャトーにあるサロンで王侯たちと音楽会を催した。ここに集まった義姉マリー・アントワネットはこの曲を愛唱したと今に伝わる。最後の時を過ごした監獄コンシェルジュリーで彼女は口ずさんだのだろうか、「愛の喜びはほんの一瞬、愛の悲しみは生涯続く」と。<NHK名曲アルバムより> (倉田 豊/記)



囲碁将棋

(囲碁部)

平成 30 年 1 月 20 日 (土)、上有賀の例会が「ふじみ荘」にて、17 名の参加を得て開催されました。今回は杉並稲門会 (4 名)、目黒稲門会 (3 名) の方々にもご参加いただき、にぎやかな碁会となりました。

結果は、A クラスは順当に池松八段が 5 勝 1 敗で優勝し、準優勝は遠藤五段と杉並稲門会の竹田五段でした。B クラスは杉並稲門会の古谷四段が 6 戦全勝で優勝でした。 (榎並 俊一/記)

(将棋部)

当初、囲碁将棋部で発足したが、一緒には大分無理があり、将棋だけで行なうこととした。代表世話人は、用賀駅そばで麻雀屋鈴家を経営している飯田保則さんをお願いした。会より 5000 円の補助金をいただいたので、さっそく将棋盤、駒等を購入し、例会を 2 月 17 日 (土) に 4 名にて行なった。

飯田さんはオール早稲田将棋祭で 3 年連続優勝している。

例会は毎月第 3 土曜日午後 1 時より。年会費 1000 円、当日会費 500 円。

連絡は飯田保則さん携帯 090-5070-2991。

(柴田 昇/記)



会員の広場

私は「トラ」きち

横田 吉明 (昭38商)



浜松地方出身なのに「なぜタイガースファン」とよく聞かれる。

私の生まれ育ったのは、今は浜松市となっているが、当時は小野口村という浜松の北で、武田信玄と徳川家康が戦った古戦場で有名な三方が原と天竜川の中の片田舎、昨年の大河ドラマ「直虎」の舞台もごく近くです。購読の新聞は中部日本新聞(今の中日新聞)で、普通ならプロ野球は中日ドラゴンズとなる。以前は春キャンプを温暖の地なので浜松市営球場でやっていた。

その4番で背番号10のホームランバッター藤村富美男だった。父に藤村の話聞き、これでタイガースファンになってしまい、それ以降、新聞でタイガースの記事を読み漁り、ラジオの中継にかじりつき、負けが色濃くなるとスイッチを切ってしまうなどのめり込んでいった。

フアンになった直後の昭和25年からプロ野球は2リーグ制になった。タイガースはジャイアンツとともにセントラルリーグに所属したが、パシフィックリーグの新球団、毎日オリオンズにタイガースの若林・別当・土井垣・呉昌征などの主力がごっそり引き抜かれる大事件となった。このため戦力が大幅に低下し強力を誇ったダイナマイト打線も消滅、新リーグでは苦戦を強いられることとなった。

その後、残った藤村兄弟・梶岡などに加え、小山・吉田などが入団したが低迷を続け、ようやくリーグ優勝できたのは、小山・村山の投手2枚看板の活躍したおかげだ。私が大学を卒業する直前の昭和37年のことだった。続いて昭和39年もリーグ優勝はしたが何れも日本シリーズでは敗退した。

そのあと江夏・田淵・岡田・掛布などヒーローは出たが優勝にはほど遠く、待望のリーグ優勝をはたし、日本シリーズも快勝、日本一になったのは昭和60年、あの有名なバース・掛布・岡田のクリーンナップの甲子園バックスクリーンへの3連続ホームランのあった年だった。

このほか記憶に鮮明なのは、昭和31年の広島戦での監督兼任の藤村の代打・満塁・逆転サヨナラホームランや昭和46年のオールスターゲームでの江夏の9者連続三振奪取などがある。

落語研究会

富塚 兆弥 (昭41政経)



今も耐え続け、毎朝散歩がてらに近くのコンビニでデイリースポーツを手に入れるのが日課であり、タイガースの記事を読み漁って一喜一憂している。金本監督が明るくガッツのあるキャラクターできつと強いタイガースを見せてくれると信じているが、昨シーズンはようやく2位で、クライマックスシリーズは残念ながら敗退した。

金本監督もまだ就任三年目、若手の成長を待ち我慢強く戦っている。近い将来日本一になってくれるものとじっと忍耐して見守っている毎日である。

会し一生落語とかかわりあうことになった。早稲田大学落語研究会(通称らっけん)は昭和二十三年小沢昭一氏、加藤武氏、大西信行氏が創設し、当初は「落語研究会」では学校に認められないと、「芸能文化研究会」と称し、全国の大学で初めて学校に落語鑑賞の公認団体として認められた会である。最初の会長は当時助教教授だった暉峻康隆先生が就任された。

落研は研究会、稽古会、鑑賞会の毎週三回の会合が「蕎麦や長岡屋」の二階で行われた。研究会は落語に関する時代背景などを調べ又落語の実態調査等を行った。稽古会は自分で落語を演じてみて落語の難しさ楽しさを知る為に落語を稽古した。我々の二、三年の先輩方は稽古会で全生さん(後の五代目圓楽、小糸さん(後の七代目談志)達から断を教わった。鑑賞会は六代目圓生師、八代目正蔵師(後の初代彦六)、八代目可楽師、五代目小さん師、十代目馬生師や若手断家さんを招いて断を聴き、又質疑応答をした。

鑑賞会にお招きした八代目正蔵師が「皆さんにお蕎麦の食べ方を教えましょう」と言っ

て、もりそばを全員（五十名位）に振る舞い、「こうやって食べるんです」と、ごく普通に食べられ、我々の謝礼で支払ってお帰りになったことが特に思い出深い。又、当時の若手（二つ目）の噺家さんたちと野球の試合をしたことがある。写真前列中央が筆者、その後がさん治さん（現十代目小三治）、その隣が吉生さん（現六代目圓窓）。当時の噺家さんとの距離は近かった。

当時、落研は春、夏に北海道から種子島まで養老院に伺って慰問旅行を行い、秋の早稲田祭では「いなほ亭」に於いて、



会員の実演を行った。又、春と秋大隈講堂で本職の噺家さん、色物の方に出演して戴いて「わせただ寄席」を開催した。今でも「わせただ寄席」は続いており昨年で八十七回になる。

落研のOB組織は「落穂会」と称し、三百五十名の会員が居る。会報は「落穂ひろい」を年三回発行し、総会は毎年夏に開催している。今、日本で噺家さんは六百

余名おられる。その中で夢月亭清鷹、桃月庵白酒、柳家甚語楼、古今亭菊太楼、各師匠は早大落研に在籍していた。笑いという文字は、昔中国の王様が笑わなかったところ犬が箆をかぶって出て来たのを見て笑ったから「犬」という字に「竹かんむり」をかぶせると笑いになったという説があります。落語を聴いて大いに笑いましょう。

記者の目

EYE OF REPORTERS

「世田谷稲門会25周年記念誌四半世紀の歩み」をお読みになっただろうか。今回のテーマは「ブロック会・部会活動特集」だ。

当会には7つのブロック会と3つの特別部会、11の趣味の部会がある。それぞれの会の温度差はかなりある。ブロック会の中には積極的に毎月の各種活動をしているブロックもあれば、年に1回程度しか集まらないブロックもある。また、本部の趣味の会と同じ内容の会を立ち上げて独自に活動をしているブロックもあるようだ。各ブロックや趣味の部会が熱心に活動をしていると思う。これは大変好ましいことと思う。これが魅力となっ

て新入会員が増加すれば良いと思う。

しかし、問題もある。ブロック会や趣味の部会の開催するイベントが本部の3大イベント（新春懇親会、総会、納涼会）と定期的に近接し、会員が本部の活動に参加しないという事態が垣間見られる。会員には年金生活者も多く、イベントが近接することはかなりの経済的負担となるので一方しか参加できないこともある。主催者側のご配慮をお願いしたい。

当会は既に4半世紀の実績となり、ブロック会活動は温度差があるもののそれなりに定着している。しかし、趣味の部会は残念ながら状況を呈している部とそうでない部があることは否めない。パソコン、ボーリングなど既に廃部となった部会や不活発な部会も存在する。部員が10名ぎりぎりの部もいくつかみられるが、部員数が少ないからといって活発でないとはいえない。10名が適当かどうかは分からないが、もつと色々な趣味の部会があっても良いと思う。平均年齢がどんどん上がってゆく中で部員の確保は世田谷稲門会会員の確保と同様に難しい問題だが、最重要課題である。

（稲男/記）

サロン・せたがや

時事川柳

（2018年三月中旬作句）

大内クレーム子

- 一、静けさがヤケに気になる北国きたの春
 - 二、盤上のトップ極めた羽生はぶ・羽生はにゆう
 - 三、「そだね」の流行語生んだカーリングはやりこ
 - 四、弾かれたストーンにも似た社の人事
 - 五、冬五輪万国旗に無い旗二流（流）
ピョンチャン
 - 六、平昌に輝く早稲田の金銀銅
 - 七、五秒縮め一億手にした果報者ランナーたか
 - 八、鎮静後またぶり返すか「貴の乱」
 - 九、山頭火や一茶を追って黄泉よみに去り
- ☆ ☆ ☆ ☆ ☆
- 一句|| 気になる五輪後の韓国、北朝鮮情勢。
 - 二句|| 将棋盤上と銀盤上で共に国民栄誉賞。
 - 三句と四句|| 五輪で日本女子カーリングチームが初の銅メダル獲得。
 - 五句|| 南北統一旗とOAR旗。
 - 六句|| オリンピックで羽生と渡部（暁）、パラリンピックで村岡が大活躍。
 - 七句|| 東京マラソンで設楽選手が日本新記録。
 - 八句|| 貴乃花親方と相撲協会との対決。
 - 九句|| 戦後を代表する反戦・社会派俳人の金子兜太さん九十八歳で逝く。

世田谷稲門会 会員異動状況 平成30年1月31日現在

〔新入正会員〕 個人情報につき不掲載

氏名	卒年	学部	郵便番号	住所	電話	ブロック会
大山 俊哉	昭57	理工				けやき
東條 康祐	昭40	政経				西北
松尾 桂輔	昭44	法				けやき

〔退会会員〕

氏名	卒年	学部	備考	ブロック会
平沢 卓也	平27	創造		西北
松江 喜久夫	昭27	商		けやき
太田 晴康	昭50	文		西北
山本 洋一	昭44	政経		きぬた
松下 忠史	昭35	理工		千歳
齋藤 郁夫	昭31	政経		キャロット

〔退会準会員〕

正会員名	準会員名	備考
水島 豊	水島 令子	

〔住所変更・訂正〕

氏名	卒年	学部	郵便番号	住所等	電話	ブロック会
三木 妙子	昭35	法				キャロット
小池 早苗	昭40	商				玉川
加藤 隆夫	昭34	法				さくら
小林 昭忠	昭44	政経				玉川
榎並 俊一	昭46	理工				きぬた

〔その他変更・修正〕

氏名	卒年	学部	修正箇所			
			メールアドレス	電話	FAX	その他
佐藤 好司	昭45	商				

事務局からのお願い;

会員みなさまの入退会はもとより、転居の場合は郵便局への届け出だけではなく、世田谷稲門会事務局にも忘れずにご連絡ください。また、電話番号、e-mailアドレス、ブロック会の変更、名簿の修正事項も事務局まで必ずご連絡ください。

事務局担当 篠崎 章子 電話 03-3305-4650

e-mail; shinoshoko@gmail.com

編集後記

昨秋に刊行した世田谷稲門会25周年記念誌をご覧いただきありがとうございました。一部に記載ミスがあったものの満足いく出来であったと思っております。ご協力いただいた皆さんには編集統括責任者として心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

私事で申し訳ありませんが、三月一日に転居をいたしました。東京には親父の仕事の関係で、4歳のときに関西から移住して、以来66年住んでおります。世田谷区内で代沢↓三宿↓太子堂と移り住み、恐らく終の棲家となるであろう今度の我が家は世田谷区千歳台のマンションです。太子堂の家は築90年という隙間風だらけの一軒家でしたが、今度のマンションは眺めも良く快適そのものです。先月「古希」になりましたが世田谷稲門会ではまだ小僧のようなものです。しばらくは編集のお手伝いを続けたいと思います。今後ともご協力のほど、よろしくお願いたします。

(榎並 俊一/記)